

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-160992

(P2005-160992A)

(43) 公開日 平成17年6月23日(2005.6.23)

(51) Int.Cl.⁷

B 2 6 B 3/00

F I

B 2 6 B 3/00

A

テーマコード (参考)

3 C 0 6 1

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2003-436237 (P2003-436237)

(22) 出願日 平成15年12月3日 (2003.12.3)

(71) 出願人 399049855

湯田 秋夫

秋田県本荘市石脇字赤元1の515

(72) 発明者 湯田 秋夫

秋田県本荘市石脇字赤元1-515

Fターム(参考) 3C061 AA02 AA25 AA31 BA03 EE19

(54) 【発明の名称】 皮むき練習補助器具

(57) 【要約】

【課題】 果物等の皮をむく際、手の指を果物ナイフ等で切るケガを防ぐ為に発明されたものである。

近年、大人に成っても果物の皮をむく事の出来ない人が多くなった。

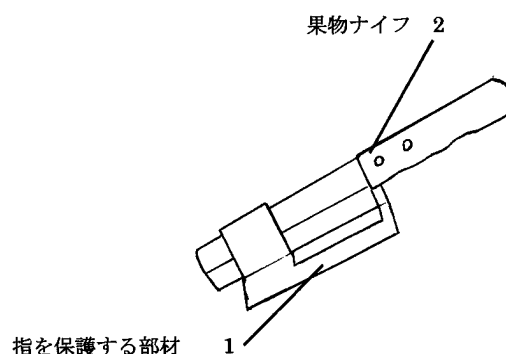
低学年の時、包丁や、果物ナイフ等で、指等ケガをした、後遺症で、包丁、果物ナイフ等を上手に扱う事が出来ない

【解決手段】 本発明の、皮むき練習補助器具を用いると、包丁、果物ナイフ等の刃先の部分に指を保護する部材を設けてある。

部材と、刃先の間幅は、果物を剥いた皮が用意に通る事が出来る幅としている。

上記記述した、部材と刃先間の幅は、指の大きさより小さい為、指が刃先に触れる事が無い。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

果物ナイフに取り付け指を保護する部材、ナイフ刃先に対して部材に果物の皮をむく為のナイフの切り込み、折衝角度を持たせた皮むき練習補助器具

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は野菜、果物の皮を剥くナイフ、包丁、家庭金物に関する

【背景技術】**【0002】**

従来、皮むき器具では、果物、野菜等をむく為の皮むき専用の器具等が色々市場にでている。

【0003】

一部包丁等の取り付け使用する、包丁用皮むき器が有る、皮の厚さを変える事等の工夫がしている物も有る

【0003】

野菜、果物の専用の皮むき器では、指等を誤って切るケガ等が、少ないが、一部包丁に、取り付けて使用する皮むき器では、包丁の取り扱いを誤ると、指等を切るケガがあった。

【0004】

上記記述のように、包丁、果物ナイフ等で皮を剥く時刃先から、指を守る部材等の付いた包丁、果物ナイフが無かった。

【0005】

包丁、果物ナイフ等で、皮を剥く作業で指を切るケガが多い為、手を守る為に皮むき専用の皮むき器がある。

【特許文献 1】特願平 08 - 050737 出願番号

【特許文献 1】特願 2002 - 030597 出願番号

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0006】**

近年、大人になっても、包丁、ナイフ等で野菜、果物等の皮をむく事の出来ない人が多くなった。

低学年の子供の時、包丁、果物ナイフ等で指を切る等のケガをした、経験が有る為に、包丁、ナイフ等を上手に出来ない後遺症を持った人が多い。

【発明が解決しようとする課題】**【0007】**

本発明は、低学年の子供が、初めて果物の皮を果物ナイフ、子供用包丁で皮を剥く際、誤って指を切る事の無いよう、指を保護する部材を設けた事にある。

【発明の効果】**【0008】**

本発明の、皮むき練習器具は、包丁、ナイフ等に取り付けて使用する。

皮むき練習器具部材は、刃先を蔽う用に取り付けて使用する為に、指等が、刃先に触れる事が無い。

又、皮むき練習器具部材は、ナイフ刃先に対して部材に果物の皮をむく為の切り込み折衝角度を持たせた事により用意に皮を剥く事が出来る、皮むき練習補助器具である。

【発明を実施するための最良の形態】**【0009】**

皮むき練習補助器具を用いると、包丁果物ナイフ等の刃先に指が触れる事が無く、刃先による切るケガの恐怖心を取り除く事が出来、子供の指を守るため最小限の部品、安価で製作出来、安全、安心を実現した。

10

20

30

40

50

【実施例 1】

【0010】

図 1 は、本発明の皮むき練習器具部材 1 を果物ナイフに取り付けた斜視図

図 2 は、本発明の皮むき練習器具斜視図であり、3 はナイフ刃先に対して部材に果物の皮をむく為の切り込み折衝角度

【0011】

プラスチック性で包丁、果物ナイフ等に取り付け取り外しが簡単な、指のけがから指を守る部材(1)設けた皮むき練習補助器具

【0012】

指を守る部材(1)は、包丁、果物ナイフ等の先端から、部材を柄の方向に挿入装着する。 10

【0013】

指を守る部材(1)の包丁を差し込む挿入幅は、包丁幅の大きさとする。

【0014】

指を守る部材(1)の果物ナイフを差し込む挿入幅は、果物ナイフ幅とする。

【0015】

上記、記述のように、指を守る部材(1)を装着し野菜、果物の皮をむく際、包丁の刃先の部分に、部材が設けて有る為、親指等が刃先に当たる事を避け、指等を切る等のケガから指を守る事が出来る。

【0016】

皮むき練習補助器具の指を守る部材(1)は、透明プラスチック板とする。 20

【0017】

皮むき練習補助器具の指を守る部材(1)の透明プラスチック板は、刃先に対し40度から45度の角度上向きに曲げ皮剥き切り込み折衝角度とする。

【0018】

皮むき練習補助器具の指を守る部材(1)を装着した時の部材と刃先の幅は、むいた皮が楽に通る事の出来る幅で、7mmから15mm程度が適している。

【0019】

皮むき練習補助器具の指を守る部材(1)は、刃先から指を守る部材長さは、25mmから40mmの刃先が出る程度の長さが適している。 30

【0020】

皮むき練習補助器具は、上記記述した構造を持つ金属等でも良い。

【0021】

皮むき練習補助器具は、上記記述した構造を持つセラミックス等でも良い。

【0022】

皮むき練習補助器具を、セラミックス等で製作し果物ナイフを差し込む挿入部の刃先の当たる、部分のセラミックを刃先と同じ角度としナイフを押したり引いたりする事で果物ナイフ等を研ぐ事が出来る

【産業上の利用可能性】

【0023】

本、発明の、皮むき練習補助器具は、果物ナイフ等に、取り付け果物の皮をむく、果物等の皮に刃先を当て、皮をむく切り込み折衝角度の、感覚を覚え、果物等の皮がガイドと刃先の間から出て来る、果物の皮を親指で皮を送り皮むく練習をする。 40

皮むき練習補助器具を用いると、包丁果物ナイフ等の刃先に指が触れる事が無く、刃先による切るケガの恐怖心を取り除く、包丁、果物ナイフの取り扱いが上手に出来る様になる。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図 1】本発明の皮むき練習補助器具を果物ナイフに取り付けた斜視図

【図 2】皮むき練習補助器具の斜視図 50

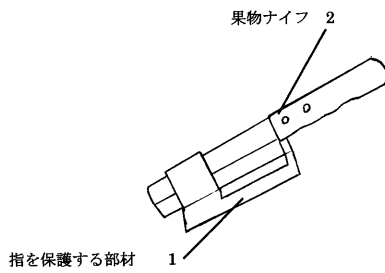
【図 3】皮をむくナイフの、切り込み折衝角度の標示図

【符号の説明】

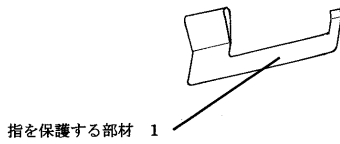
【 0 0 2 5 】

- 1 指を守る部材
- 2 果物ナイフ
- 3 皮をむく切り込み折衝角度

【図 1】



【図 2】



【図 3】

